

新編錄倉志一

KI
16



28509

本利



録倉

新編録倉志卷之一目錄

録倉地理之圖

録倉大意

鶴岡八幡宮

附雪下

由比濱

新宮

柳原

若狹前司泰村舊跡

筋替橋

附畠山重忠屋敷

録倉十橋

蛇谷

澤文庫

鎌倉地理之圖



糸糸金糸糸元 紋履

東武川八浦在在澤也 界地藏 此道朝美名切通相續

新編鎌倉志卷之一

河井恒久友水父纂述
 松村清之伯胤父考訂
 力石忠一叔貫 參補

○鎌倉大意

相州鎌倉郡ハ。詞林采葉抄ニ云。鎌倉トハ鎌ヲ
 埋ム倉ト云詞ナリ。其濫觴ハ昔大織冠鎌足イマタ
 鎌子ト申セシ比。宿願ノ事マシマスニヨリ。鹿島參詣
 ノ時。此由比里ニ宿シ給ヒケル夜。靈夢ヲ感ジ。年來
 所持シ給ヒケル鎌ヲ。今ノ大藏ノ松岡ニ埋ミ給ヒケル



ヨリ。鎌倉郡ト云。因之思フニ。歌ニ鎌倉山ノ松トヨミ
 ツクルコト。鎌ヲ埋ム所。松岡ナレバナリ。凡ソ鎌ノ
 字ノ釋訓。松ノ字ノ釋訓。是異國本朝トモニ其理
 コレ多シ。先ツ鎌ノ字ハ兼金ト書ケル字也。金ハ司
 甲兵器也。倉ノ字ハ人一君ト書ケリ。然レハ鎌
 倉ハ武備兵將ノ居ナル者也。地理全書ヲ披見シ
 テ。此所ノ風水山嶺ヲ按スルニ。今ノ鶴岡ハ大倉ト
 云山ナリ。西ニ高キ山ハ武曲星ノ地ニ相當ル。其名
 ヲ武山ト云フ。又西ニ山アリ。武庫ト號ス。龜谷ノ山
 也。是則鎌倉中央第一ノ勝地也。此等ノ山悉ク

倉庫ノ名アリ。其中央ノ山玄武ニ當ル。貴人金
 爐等ヲ朱雀ニ當ツ。左大倉右武庫。武將居ヲ成
 サニ於テハ吉慶アルヘシ。全書ニ曰。大倉武庫按
 龍行。前有金爐玉案。迎若シ遷此地。於王侯宅
 白屋為官名。自成行。軍出陣來唱。嗟。所有排衛
 及貴人。十里方圓皆變改。受職金牌玉榜名矣。
 此外大藏心倉也。崇山心武也。然鎌字兼金也。
 金西也。倉ノ字ハ人君也。因案スルニ。兼西人君ノ
 居タルヘキ理明白也。茲以大織冠ノ古ヲ勘フルニ。
 此地鎌ヲ埋ミ給ヒテ後。天智天皇八年ニヤ。中臣ノ

姓ヲ改メテ藤原ト賜ハリ内大臣ニ任シテ以降代
 代ノ皇帝ノ執柄トシテ末代ニ至ルマテ萬國ヲ治
 メ給フ。隨而彼玄孫添屋太郎大夫時忠東大寺良辨僧
 也。文武天皇ノ御宇ヨリ。聖武天皇神龜年中
 二至ルマテ。鎌倉ニ居住シテ。東八箇國ノ總追補使
 二テ。鎮東夷守國家。其後平將軍貞盛孫上總介
 直方。鎌倉ニ家居ス。鎮守府將軍兼伊豫守源賴
 義。イマ父相模守ニテ下向セシ時。直方婿トナリ給ヒ
 テ。八幡太郎義家出生シ給ヒシカバ。鎌倉ヲ護リ
 給ヒシヨリ以來。源家相傳ノ地トシテ。去ル治承五

年辛丑ニ。右幕下征夷大將軍。鶴岡ニ八幡宮ヲ
 崇メタテマツリ給フ。如此義理ヲ案スルニ。先ニ述ス
 ルカゴトク。王城西也。鎌倉東也。此義ヲ含ムニ依
 テ。兼金人君ト訓釋スル者也。鎌倉ノ君將ハ都鄙
 ノ政ヲ扶ケ。武勇ヲ專ニシテ。帝都ヲ守護シ奉ル
 ヘキ道也。竊中ハ天子ノ勅。塞外ハ將軍ノ令ト云
 ガ如シ。京鎌倉是也。故ニ天子ハ稟天命以正王
 制。將軍奉王命以守將道。然將軍代々以鎌倉
 為基。此字ノ訓若相當理。末代モ心可然。抑松岡
 二八幡大菩薩ヲ勸請シ給フ事。此又不思議ノ

新編金鑑

卷之一

二

理也。其故ハ彼大菩薩ハ應神天皇ノ垂跡トシテ。神功皇后三韓征伐ノ時。胎内ニシテ將軍ノ位ヲ得セシメ給フ。誕生ノ砌ニ天ヨリ八流ノ幡降下。鎮護國家武將擁護ノ神也。本地ハ是弥陀如來。是之兼西ノ理ヲ含ム者歟。次ニ松岡ニ鎌ヲ埋ミ給フ事。松ハ木公ト書ク。是司東義也。彼此金ヲ兼ル人君ニ符合スル者乎。鎌倉山ニ詠松事。上古ノ作者未代ヲ鑒ミルニ非スヤト有。今按スルニ大織冠。鎌ヲ埋ミ給ヒタル地ハ。今ノ上宮ノ地ナリ。此松岡ト名ク。故ニ後ノ山ヲ大臣山ト云ナリ。此地ニ本ハ稻

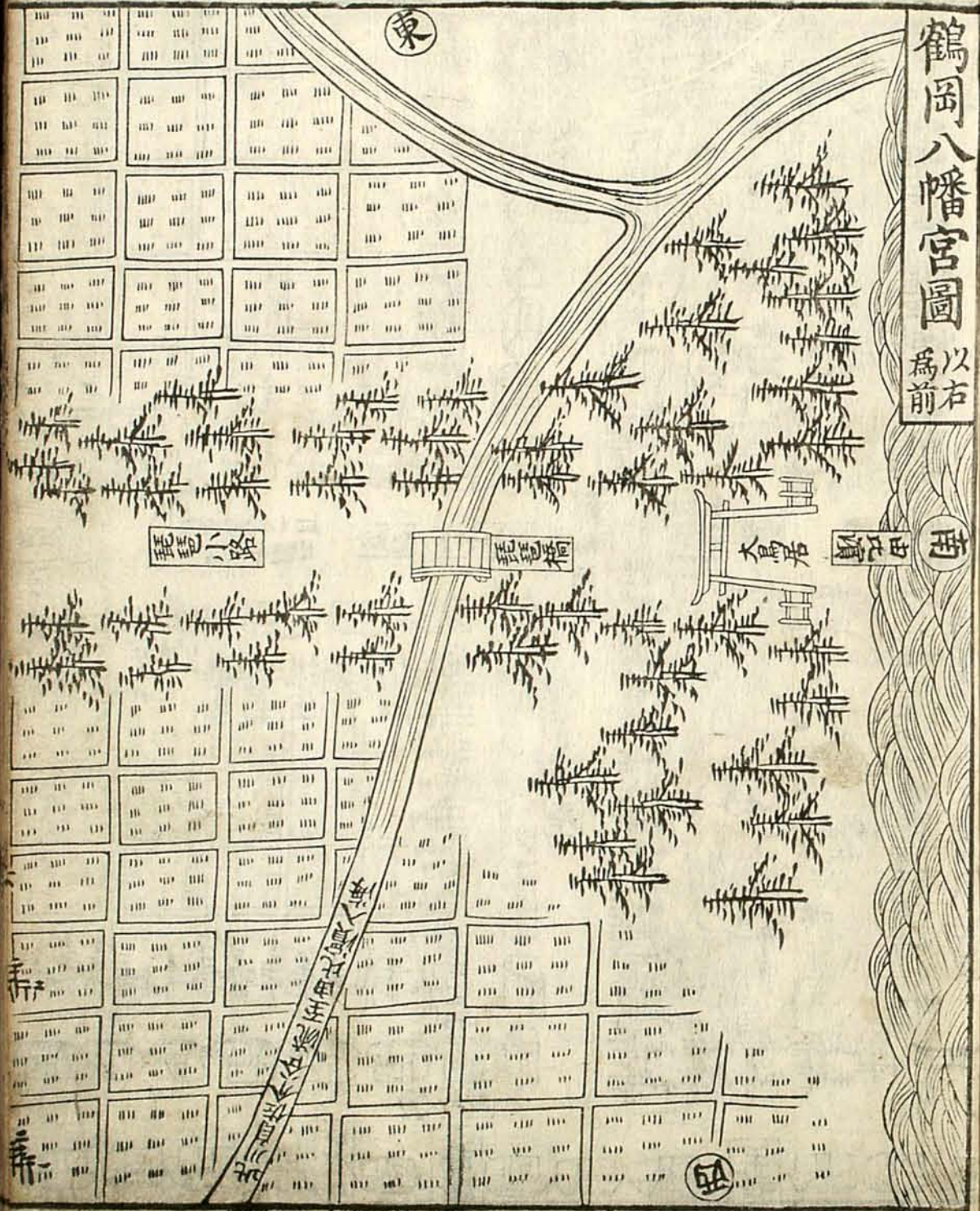
荷社アリシヲ。賴朝卿建久二年ニ地主稻荷ヲ西ノ方丸山ニ移シテ。八幡宮ヲ此所ニ勸請シ給フ。是故ニ上宮ヲ松岡ノ八幡宮ト云フ。鶴岡社務次第ニモ。松岡八幡宮別當職トアルハ上ノ宮ノ事也。社務ノ云傳ルニモ。上ノ宮ヲ松岡ト云。下ノ宮ヲ鶴岡ト云フ。又松岡明神ト云テ。鶴岡ニテ御供具フル神アリ。丸山ノ稻荷明神ナリ。是舊ニ依テ松岡ノ明神ト云ナリ。俗ニ傳フル淨妙寺中ノ稻荷明神ヲ鎌ヲ埋ミタル舊地ト云ヒ。又東慶總持寺ヲ松岡ノ舊地ト云ハ皆誤リナリ。萬葉集ノ歌ニ。
作者不知

薪タケユル。鎌倉山ノコタル木ヲ。松トナガイハ、戀コイツ、ヤ
 アラン。又藤實方ノ歌ニ。カキクモリ。ナドカ音ネセヌホ
 ト、ギス。鎌倉山ニ道ミチヤマドヘル。大納言公任ノ歌
 ニ。ワスレ草。カリツムバカリ成ニケリ。跡アトモト、メ又鎌
 倉ノ山。慈鎮和尚ノ歌ニ。ナガメ行ユク。心ノイロヅ深カ
 ラシ。鎌倉山ノ春ノ花園。法印堯慧キョウエカ歌ニ。都思トモシフ。
 春ノ夢路モウチトケズ。アト鎌倉ノ山ノアラシヤ。
 鎌倉山トハ大臣山ヲ云トナリ。源順和名抄ニ。鎌
 倉郡ノ内ニ。鎌倉ノ里アリ。何レノ地ヲ云ニ。歟不
 分明アハレ大臣山ヲ鎌倉山トイヘバ。雪下ユキノヲ鎌倉里ト

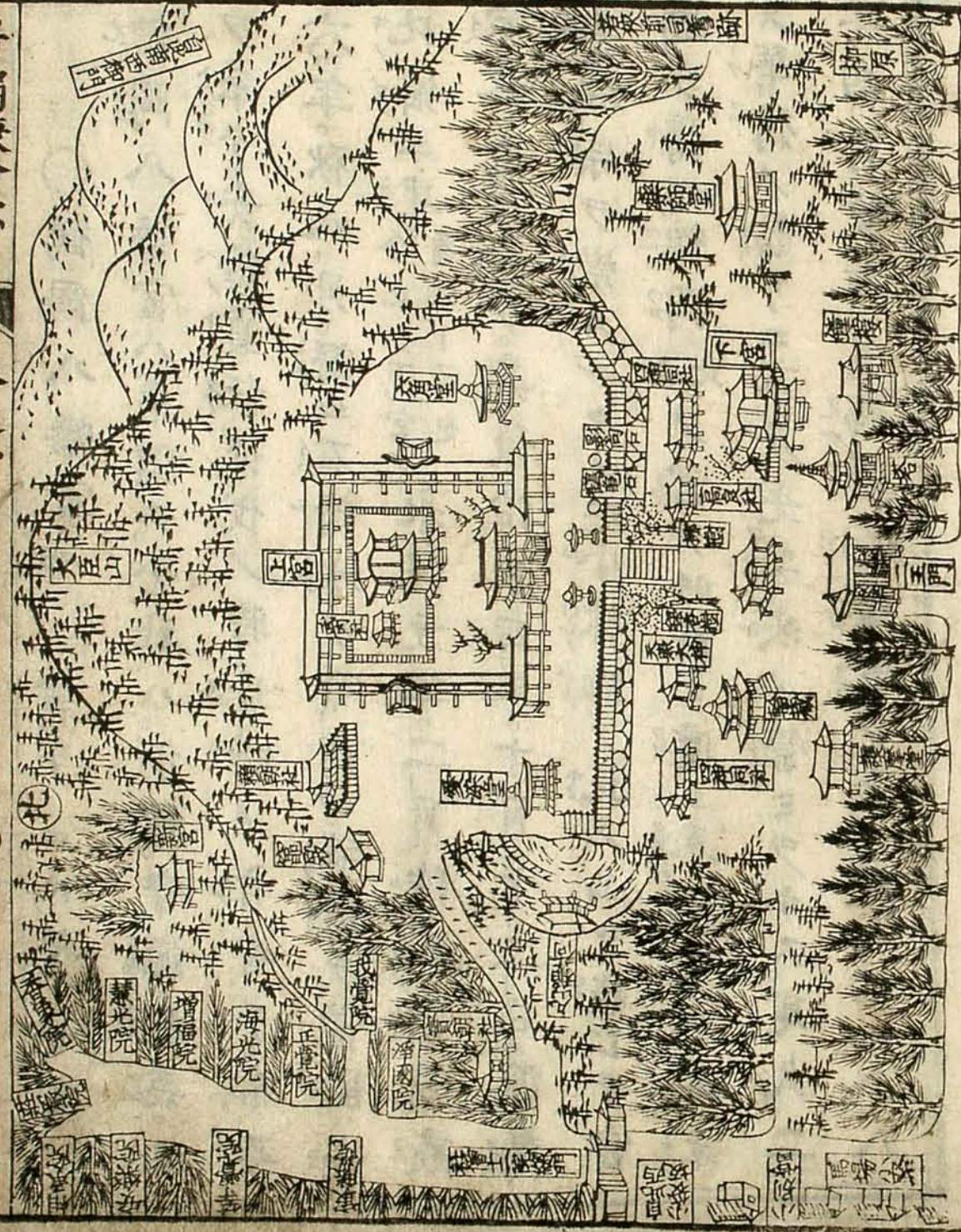
云ニカ。藤實方ノ歌ニ。民モ又。ニギハヒニケリ秋ノ田
 ヲ。カリテヲサマル鎌倉ノ里。又續古今集ニ。鎌倉右
 大臣ノ歌ニ。宮柱ミヤハしらフトシキ立タチテ萬代マンダイニ。今イマゾ榮サカヘン
 鎌倉ノ里。夫木集ニ。藤原基綱ノ歌。昔ムネシニモ。夕ユフチユソ
 マサレ民ノ声ノ。煙エビニギハフ鎌倉ノ里。又。東路アサチヤ。アマタ
 郡ノノ中ニ。イカテ鎌倉サカヘツメケシ。中務卿ナカツツネ、宗
 親ノ歌ニ。十年トシアマリ。五年イツシマテモ住スミ馴ナテ。ナヲワスラレヌ
 鎌倉ノ里トアリ。按スルニ。東鑑ニ。陰陽權助國道云。
 所謂四境トハ。東ハ六浦。南ハ小坪。西ハ稻村。北ハ山
 内トアリ。然レハ此内ヲ鎌倉ト云ヘシ。鶴岡記録ニ

云。鎌倉谷七郷トハ。小坂郷。小林郷。葉山郷。津村郷。村岡郷。長尾郷。矢部郷ヲ云ナリ。鎌倉七口トハ。名越切通。朝夷名切通。巨福路坂。龜谷坂。假粧坂。極樂寺切通。大佛切通。此外ニ小坪切通。稻荷坂アリ。稻荷坂ハ。十二所村ヨリ。池子村へ出ル坂也。

鎌倉八里夫木兼三新嘉徳源入者音之ニ云々トク
大倉八里夫木兼三新嘉徳源入者音之ニ云々トク
大倉八里夫木兼三新嘉徳源入者音之ニ云々トク
大倉八里夫木兼三新嘉徳源入者音之ニ云々トク
大倉八里夫木兼三新嘉徳源入者音之ニ云々トク



鶴岡八幡宮圖
以前
為前



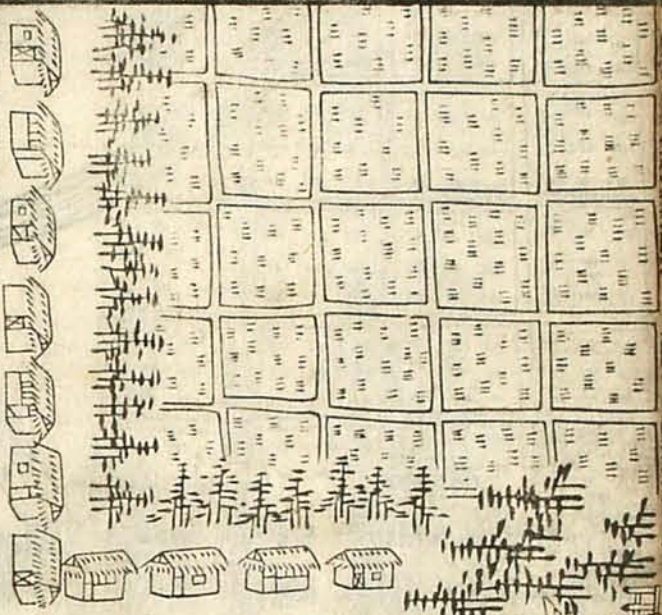
此道東富山屋敷



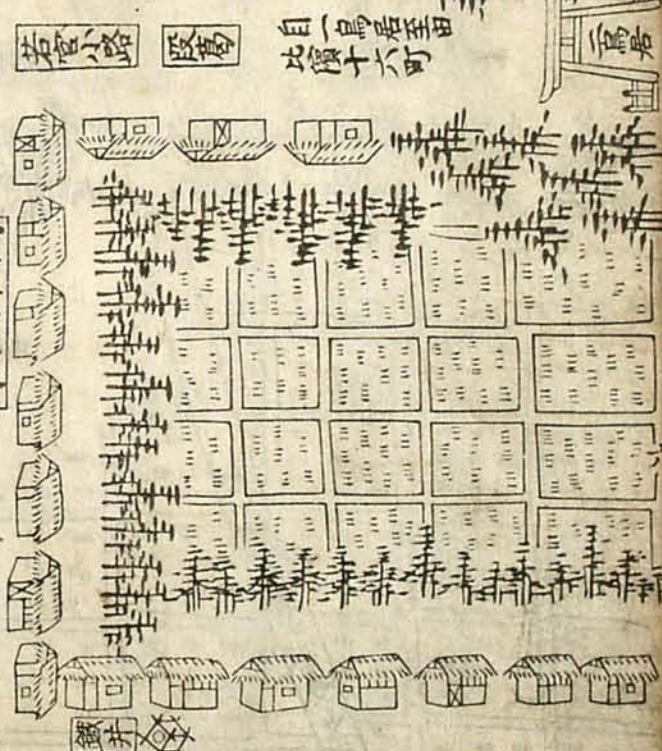
此道東西相通兩島居間三町二寸間



自此東寶戒寺小路



雪下卷小路



○鶴岡八幡宮 附

雪ノ下 由比濱 新宮

鶴岡八幡宮ハ東鑑ニ本社ハ伊豫守源頼義。勅
 ヲ奉テ。安倍貞任征伐ノ時。丹祈ノ旨有テ。康平
 六年。秋八月。潛ニ石清水ヲ勸請シ。瑞籬ヲ當國由
 比郷ニ建今此ヲ下ノ宮ノ。永保元年。二月陸奥守源義
 家。修復ヲ加フ。其後治承四年。十月十一日。源頼
 朝。祖宗ヲ崇メシタメニ。小林郷ノ北ノ山ヲ點ジテ宮
 廟ヲ構ヘ。鶴岡由ノ宮ヲ此所ニ遷シ奉ル。シカレドモ。未
 夕華構ノ飭リニ不及。先茅茨ノ營ミヲナス。建久二
 年。四月廿六日。鶴岡小若宮ノ上ノ地ニ始メテ八

幡宮ヲ勸請シ奉ン為ニ。寶殿ヲ營作セラル。今日上
 棟也。同十一月廿一日。鶴岡八幡宮。并ニ若宮
 及ヒ末社等ノ遷宮トアリ。按ニ東鑑ニ去ル三月四日
 小町ノ邊ヨリ失火シテ。幕府
 并ニ御家人ノ屋。若宮ノ神殿。回廊。塔。婆等。
 悉ク灰燼トナルト有。此建立ハソレユヘナリ。今按スルニ。由比
 濱下ノ宮ノ舊地ヲ。昔シハ鶴岡ト云ナリ。東鑑ニ。治
 承四年。十月七日。頼朝先遙ニ鶴岡ノ八幡宮ヲ
 ヲガミ奉ルトアルハ。由比濱ノ宮ナリ。小林郷ニ遷シ
 テ後モ。又鶴岡ノ八幡宮ト云傳ヘタリ。昔シハ御供
 料。所ニ當國桑原郷ヲ寄付セラルト。東鑑ニ見ヘ
 タリ。頼朝直判ノ書ニモ。社領ノ事アリ。今ハ永樂

錢。八百四十貫文アリ。毎年八月十五日放生會。
 同十六日。矢鏑馬。二月十一日。初ノ卯ノ日。陪
 從。今ニ不絶ナリ。新拾遺集ニ。左兵衛督基氏ノ
 歌。鶴岡。コダカキ松ヲ吹風ノ。雲井ニヒバク萬代ノ
 聲。夫木集ニ。為實朝臣ノ歌。鶴岡。アラグツバサノ夕
 スケニテ。高キニウツレ宿ノ鶯。又藤為相ノ歌ニ。山踏
 ヨリ。出テヤキツル里千カキ。鶴岡。ベニ鳴郭公。法
 印。堯慧カ歌ニ。吹殘ス。春ノ霞モヲキツスニ。夕テル
 ヤ鶴岡ノ松カゼ。一ノ鳥居ノ前東西へ通町ヲ。東鑑
 ニハ。横大路ト有。一ノ鳥居ヨリ。大鳥居マデヲ。若宮

大路トアリ。今ハ堅横トモニ。若宮小踏ト云ナリ。社
 ノ西ノ町ヲ。馬場小踏ト云ナリ。總名ヲ雪下ト云
 ナリ。此所ニ旅店アリ。法印堯慧カ歌ニ。春フカキ。跡
 アハレナリ。苔ノ上ノ。花ニ殘レル雪ノ下道ト詠ス。社
 前ヨリ濱マデノ道。其中ノ一段高キ所ヲ。段葛ト
 名ク。又ハ置踏トモ云ナリ。東鑑ニ。壽永元年三月
 十五日。鶴岡ノ社頭ヨリ。由比浦ニイタルマデ。曲横
 ヲ直シテ。詣往ノ道ヲ造ラル。御臺所。御懷孕ノ
 御祈リニ依テ。此儀ヲ始メラル。賴朝手自沙汰シ
 給フ。仍テ北條殿已下各々土石ヲ運バルトアリ。三

赤二石ノ鳥居アリ。赤橋ノ前ノ鳥居ヨリ。間々四
 町十五間半ニシテ又鳥居アリ。二ノ鳥居ト云。二
 鳥居ヨリ間六町四十五間ニシテ鳥居アリ。三ノ鳥
 居也。是ヲ大鳥居ト云フ。二三ノ鳥居ノ間ノ踏フミ古
 ハ外ノ方へ曲テ。琵琶ノ形ノ如シ。故ニ琵琶小踏ト
 云。此間ニ橋アリ。琵琶橋ト云。或記ニ云。昔シ和田
 合戰ノ時。宍戸左衛門家政。琵琶橋ニ於テ。朝夷
 名義秀ト戰フテ討ルト。大鳥居ヨリ波打際マテ
 五町アリ。此ノ濱邊。東ハ飯島。西ハ靈山崎。其間
 二十三町アリ。由比比成佐濱ト云フ。頼朝

卿。此浦邊ニテ。弓馬ノ藝ヲ興シ給ヒテヨリ。代々ノ
 將軍此濱へ出遊ノ事。東鑑ニ見ヘタリ。
 大鳥居トリ由比濱ノ方ニ有ヲ大鳥居ト云。兩柱
 ノ間。下ニテ六間半。高サ三丈壹尺五寸。石柱
 ノメグリ。壹丈二尺五寸。笠石ノ長サ八間ナリ。
 一二ノ鳥居ハ。兩柱ノ間。下ニテ四間。柱ノメグリ
 七尺ナリ。東西ノ透門ニ。又鳥居アリ。兩柱ノ間
 壹丈二尺五寸。柱ノメグリ四尺五寸。東西同
 シ。都テ五所ニ鳥居アリ。東鑑ニ。治承四年十一月
 月十六日。鶴岡ノ若宮ニ鳥居ヲ立ラルトアリ。

又鶴岡社務次第二。養和元年。辛丑十二月十六日。若宮ニ鳥居ヲ立ラル。景時キキ景義等奉行ス。武衛朝監臨シ給フトアリ。又東鑑ニ。建保三年十月卅日。鶴岡ノ濱ノ鳥居。新ニ造ラル。去ル八月ノ大風ニ顛倒スルカ故ナリ。仁治二年四月三日。大地震南風ニ由比。浦大鳥居内ノ拜殿。潮ニ引カル。寛元三年十月十九日。由比濱ニ大鳥居ヲ建ラル。北條左親衛時頼監臨セラルトアリ。鎌倉九代記ニ。上杉安房守入道道合嘉慶二年六月。大華表ヲ立ラレ。落慶

供養ヲ遂ラルトアリ。關東兵亂記ニ。北條氏康先君ノ遺願ヲモ果シ。且ハ武運榮久ヲモ祈ラシ。為ニ天文二十一年卯月ニ。由比濱大鳥居修造セラルトアリ。頼朝ノ時建立有テ。代々修復アリ。今ノ鳥居ハ。寛文乙巳ノ年ヨリ。戊申ノ秋至マテ。上下ノ宮。諸末社等ニ至マテ。御再興有シ時ノ鳥居ナリ。其書付ニ。鶴岡八幡宮石。雙華表。寛文八年戊申八月十五日。御再興ナリ。三所ノ鳥居共ニ如斯アリ。鳥居石ハ備前國犬島ヨリ取寄ラル。其時ノ奇瑞等ノ事。寛文

年中修復記ニ詳ナリ。

辨才天シ社シ 社前ノ池中東ノ方ニアリ。二間ニ一
 間ノ社ナリ。辨才天ノ像ハ運慶ガ作ナリ。膝ニ
 琵琶ヲ横タヘタリ。俗ニ傳フ。小松大臣ノ持タル
 琵琶ナリト。東鑑ニ。壽永元年四月廿四日。鶴
 岡若宮ノ邊ノ水田号ニ終三町餘リ。耕作ノ儀
 ヲ停ラレテ池ニ掘ルトアリ。池中ニ七島アリ。相
 傳、頼朝卿。平家追討ノ時。御臺所政子ノ願ニ
 テ。大庭平太景義ヲ奉行トシテ。社前ノ東西
 池ヲ掘シム。池中ノ東ニ四島。西ニ四島。合テ八

島ヲ。東方ヨリコレヲ賊スト祝ス。東ニ三島ヲ残
 ス。三八産ナリ。西ニ四島ヲ置。四ハ死ナリト云心
 ナリケルトソ。

赤橋 本社へ行反橋ナリ。五間ニ三間アリ。昔ヨ
 リ是ヲ赤橋ト云。東鑑ニ往々見ヘタリ。

二王門 三間ニ二間アリ。額ニ鶴岡山トアリ。曼
 殊院良恕法親王ノ筆ナリ。兩傍ニ二王ノ像
 アリ。昔ハ八足ノ門有ケル歟。東鑑ニ。正治三年
 八月十一日。大風ニ。鶴岡宮寺ノ八足ノ門。顛
 倒ノ事アリ。

舞殿 上ノ地へ登ル石階ノ下ニアリ。三間ニ二間アリ。

石階 此石階ヲ登。北ニ向テ本社へ行也。是ヨリ

上ヲ上ノ地ト云也。本社アリ。是ヨリ下ヲ下ノ地

ト云。若宮アリ。此石階ノ下。東ノ方ニ柳樹アリ。

西ノ方ニ銀杏樹アリ。東鑑ニ承久元年。正月二

十七日。今日將軍家。朝。右大臣拜賀ノ為。鶴

岡八幡宮ニ御參。酉刻也。夜陰ニ及テ。神拜ノ

事終テ。漸ク退出セシメ給フ處ニ。當宮別當阿

闍梨公曉石階ノ際ニ窺來リ。劔ヲ取り。丞相ヲ

奉_レ侵_トアリ相傳フ。公曉。此銀杏樹ノ下。女服

ヲ著テ隱レ居テ。實朝ヲ弑ストナリ

樓門 額ニ八幡宮寺トアリ。良怒法親王ノ筆ナ

リ。樓門、三間ニ二間アリ。回廊ハ樓門ニ續キ回

ラス。北方、十四間。東西、十六間ツ。南面ニテ樓

門ノ東西四間ツ。アリ。前ニ銅燈臺一樹兩傍

ニアリ。左ノ方ニアル燈臺ノ銘ニ。延慶三年。庚戌。

七月。願主滋野景義。勸進藤原行安トアリ。右

ニアル燈臺ニハ。奉寄進。鎌倉八幡宮殿燈籠。向

井將監忠勝。息子兵部鶴千代。為傳武運。於

長久保壽算於遠大而三身安樂同苗繁茂故也。仍銘曰。燈籠玉成明德見新。天命不昧。日月星辰爰希武運。咨保福來臻。寬文龍集。戊辰十一月如意珠日。相州三浦紫陽山白室叟書勸進。沙門莊嚴院法印賢融大工江州太田佐兵衛藤原友定トアリ。

上宮カミノミヤ此則上ノ地本社應神天皇ナリ。此地ヲ元松岡ト云。上ノ山ヲ大臣山ト云。鶴岡八幡宮記ニ。上宮カミノミヤ三所ハ中ハ應神天皇東ハ氣長足妃應神御母神功皇后也。西ハ妃大神應神ノ御姊

也。然ハ應神ノ御父仲哀天皇ハ何レノ處ニ坐シ給ヘル乎。曰ク神宮寺ニ本地垂跡合體ニテ坐シ給也。上宮カミノミヤ三所ハ阿弥陀ノ三尊ノ義ニ依也。仲哀天皇ハ本地ハ藥師ナル故ニ奉除之也トアリ。本殿ハ堅九間。横三間。幣殿ハ四間。二二三間。拜殿ハ四間。二二間ナリ。

棟札

上棟。相州鎌倉鶴岡八幡宮。寬文八年戊申八月十五日。征夷大將軍右大臣正二位源朝臣修造奉行。後五位下備前守源姓松平

氏隆綱。大工鈴木修理藤原長常。木原内匠藤原義永。

武内社。本社ノ西ノ傍。玉垣ノ内ニアリ。武内宿

祢ナリ。社ハ二間二一間アリ。玉垣北方ニテ十

二間。東西ハ八間アリ。

座不冷壇所。回廊ノ東方ニアリ。天下安全ノ御

祈願所ナリ。御正體ト號シテ。壇ヲ構ヘテ。鏡ニ祢

陀ノ像ヲ打付タル物ヲ厨子ニ入。鎖ヲオロシテ

有。又立像ノ十一面觀音坐像ノ金銅ノ藥師モ

厨子ニ入。十二坊。輪番ニ一晝夜ツ、相勤ム。最勝

王。大般若。仁王等ノ經ヲ更ルク讀誦ス。鈴ノ音

常ニ社外ニ響ク。是ヲ座不冷ノ行法ト名ク。平

生勤メ行テ坐ヲサマサスト云。義ナリ。鎌倉ノ俗

語ニハガスト云也。龜山帝ノ時。御夢想依テ御

祈禱ノ綸旨院宣ヲ成シ下サル。弘安八年。三月

十七日ニ始テ勤行ヒシヨリ今ニ懈怠ナシト云

ナリ。按スルニ東鑑ニ。治承四年十月十六日。賴

朝ノ御願トシテ。鶴岡ノ宮ニテ長日勤行ヲ始

メラル。所謂法華。仁王。最勝王等ノ鎮護國家

ノ三部ノ妙典。其外大般若。觀音經。藥師經。壽

命經等也トアリ。昔ヨリ有事ト見ヘタリ。毎日ノ
勤行ヲ著到ニ記スルナリ。昔賴朝卿。供僧ノ一
膺ヲ以テ。始テ執行職ニ補セラレシヨリ以來。祭
祠勤行法例著到等。皆執行ノ事也。

小御供所 樓門ノ西ノ方。回廊ニアリ。毎月朔日
十五日。又五節供ニ。御供ヲ具ル所ナリ。御殿
司一人出テ。八幡宮并ニ諸末社等ニ供ス。

賴朝社 本社西ノ方ニアリ。三間ニ二間アリ。玉
垣。東西四間。南北六間アリ。白旗明神ト号ス。
社内ニ賴朝ノ木像。左ニ住吉。右ニ聖天ヲ安ス。

賴家創造也ト云傳フ。寛文戊申甲御再興以後。
毎年正月十三日。御供ヲ獻シ。樂ヲ奏シ神事アリ

竈殿 賴朝社ノ西ノ方ニアリ。五間ニ三間アリ。八
幡宮記ニ。八幡ノ嬖寶滿菩薩ヲ安ストアリ。俗
ニオミルストモ申スト也。此所。大御供所ナリ。每
年正月三箇日。四月三日ノ御祭禮。五々三
ノ御供。御寶殿ニ獻ル。無ヲ奏スルナリ。

愛染堂 賴朝社ノ向フニアリ。堂三間四方アリ。
愛染像ハ。運慶作。又堂内ニ地藏アリ二位尼
政ノ本尊ト云傳フ。タシカナラズ。供僧ノ云ク。赤

橋、東方ニ昔地藏堂アリ。礎石今尚存ス。此堂ノ本尊ヲ二位ノ尼ノ本尊ト云フ。今ハ在、所不知ト。

稻荷社 本社ノ西ノ方。愛深堂ノ西ノ山ニアリ。二間二一間アリ。井垣三間四方也。此山ヲ丸山ト云ナリ。本社ノ地ニ初ハ稻荷ノ社アリシヲ建久年中。頼朝卿。稻荷ノ社ヲ此山ニ移シテ。今ノ本社ヲ勅建セラル。後頽破ス。今ノ稻荷社。本ハ二王門ノ前ニ有テ。十一面觀音ト。醉臥ノ人ノ木像トヲ安シ。酒ノ宮ト號ス。近比大工遠

江ト云者有。甚夕酒ヲ好テ此ヲ寄進ス。寛文年中ノ御再興ノ時。其體神道佛道ニ曾テ無事也トテ。酒ノ宮醉臥ノ像ヲ取捨テ。觀音ハカリヲ以テ。稻荷ノ本體トシテ。此丸山ニ社ヲ立。舊ニ依テ松岡稻荷號ス。前ノ鎌倉ノ條下ニ詳ナリ。十一面觀音ヲ稻荷明神ノ本地ト云傳故ニ。此社内ニモ十一面ヲ安スル也。

影向石 相傳正應二年。二月四日。大風雨シテ。此石涌出ス。供僧圓頓坊ノ夢ニ座不冷ノ行法ヲ聽聞ノ夕メニ。龍神ノ來ル座石也ト。古ハ一ツ

有。今ハニツ有。イツレヲ真偽トシカタシ。

鶴龜石 水ニテ洗ヘハ光澤イテ、鶴龜ノ如モノ

輝キ見ユルナリ。影向石ト共ニ本社ノ前左ノ方

ニアリ。

六角堂 回廊ノ外東ノ方。座不冷壇ノ前ノ庭ニ

アリ。六十六部ノ聖經ヲ納ル堂ナリ。

下宮 上ノ地ノ石階ヲ下リ。東ノ方ナリ。額ニ若

宮大権現トアリ。青蓮院尊純法親王ノ筆也。

是ヲ若宮ト申。仁徳天皇ナリ。東鑑ニ。治承五

年。五月十三日。鶴岡若宮ノ營作ノ事アリ。大

工ハ。武州淺草字ハ郷司ト云者也。當宮ハ。去年

假ニ建立ノ号有トイヘトモ。楚忽ノ間。先松ノ柱

壹ノ軒ヲ用ラル。仍テ花構ノ儀ヲナシ。專ラ神威

ヲ賁ラル。同八月十五日。鶴岡若宮遷宮トアリ。

鶴岡八幡宮記云。下ノ宮四所トハ東ハ二所。久

禮。宇禮也。仁徳ノ御妹ナリ。中ハ若宮。則仁徳

ナリ。西ハ若殿。是モ仁徳ノ御妹ト云フ。本殿ハ。五

間ニ三間。幣殿ハ。四間ニ三間。拜殿ハ。三間ニ二

間。玉垣ハ。北方十間。東西八間ツ、アリ。玉垣ノ内

ニ柳樹アリ。寛文年中修復記ニ云。此柳樹切取

ベキ歟ノ事。凡慮ヲ以テハカリガタキユヘ。寶前ニ
 テ闔ヲ取ル切取ベカラズト治定シテ令尚アリ。棟
 札上ノ宮ト同シ。但下ノ宮ニ八幡岡八幡若宮トアリ。
 高良大臣社。上ノ地ノ石階ヲ下リ。左ノ方。椰ノ
 樹ノ東ニアリ。八幡宮記ニ云。又玉垂ノ大神ト號ス。
 應神ノ臣也。

三島熱田三輪住吉社。高良ノ東ニアリ。四神
 同社ナリ。東鑑ニ。文治六年四月二日。鶴岡ノ
 末社三島ノ社ノ祭トアリ又云。元暦元年。七月
 廿日。鶴岡若宮ノ傍ニ社ヲ新造シ。熱田

大明神ヲ勸請セラルト。又文治五年。七月十日。
 鶴岡ノ末社熱田社ノ祭ト有。

天照大神社。上ノ宮ノ石階ヲ下リ。右ノ方。銀杏
 樹ノ西ノ方ニ有。

松童天神源大夫夷三郎社。天照大神ノ西ニ
 アリ。四神同社也。松童ハ八幡宮記ニ。八幡ノ牛飼
 也トアリ。源大夫ハ八幡ノ車牛也トアリ。或ハ元
 大武ト書ナリ。東鑑ニ。建長五年。八月十四日。
 始テ鶴岡西ノ門ノ脇ニ。三郎大明神ヲ勸請シ奉
 ラルトアリ。宗尊將軍ノ時ナリ。

輪藏 銀杏樹ノ西ノ方ニアリ。五間四方ナリ。一切經アリ。實朝朝鮮へ書ヲ遣ハシ求メタル經ト云傳フ。按スルニ東鑑ニ建曆元年十月十九日。實朝將軍永福寺ニ於テ宋本ノ一切經五千餘卷ヲ供養セラルトアリ。此宋本ノ經ヲ轉傳シテ此藏ニヲサメタルカ内ニ四天王ヲ安ス。毘沙門ハ渡海守護ノ為ニ朝鮮ヨリ載來ルトナリ。鶴岡社務次第ニ建久五年甲寅十一月十三日。一切經供養不載事アリ。シカレハ賴朝ノ時ヨリ。一切經供養ノ事ハ有シトミヘタリ。

護摩堂 輪藏ノ前ニ有。五間ニ四間アリ。五大尊ハ運慶作。大威徳ノ乘タル牛ノ足。膝ヲカメタリ。

相傳フ。義經ヲ調伏ノ時。膝ヲ折タリト也。鶴岡社務次第ニ尊勝護摩始行ハル。建武元年三月二十三日。擬ハ大佛頂人數八人。元十六人トアリ。

藥師堂 下宮ノ東ノ方ニアリ。五間ニ四間ナリ。藥師十二神ノ木像アリ。是ヲ神宮寺ト云フ。東鑑ニ承元二年四月廿五日。實朝將軍鶴岡ノ宮ノ傍ラニ始テ神宮寺ヲ建ラレ。同年十一月十

二、日造畢ス。今日午ノ刻ニ本尊藥師ノ像ヲ安置シ奉ラル。同月十七日。藥師ノ像開眼トアリ。又建曆元年。十一月十六日。尼御臺所ノ御願トシテ。金銅ノ藥師三尊三像ヲ供養セララル。此本尊ハ。鶴岡ノ神宮寺ニ安置セラルトアリ。ソノ像。今座不冷ノ壇ニ金銅ノ藥師アリ。是ナルベシト云フ。或人云。是ヲ神宮寺ト云ハ訛ナリ。神宮寺トハ。別當職ノ所居ヲ云ナリト。然レトモ東鑑ニ已ニ是ヲ神宮寺ト有。又本社ヲモ東鑑ニハ神宮寺ト有ナリ。清重舞ニ。神宮寺ノ松風ト有ハ。

塔

コノ藥師堂ノ前ノ松樹ノ事也。今古松樹アリ。

若宮ノ前ニアリ。五間四面ナリ。五智ノ如來ヲ安ス。東鑑ニ。文治五年。二月十三日。鶴岡ノ八幡宮ノ傍ニ。此間塔婆ヲ建ラル。今日空輪ヲアケ。二品朝監臨シ給。同六月九日。御塔供養。道師ハ法橋觀性。願文ハ。新藤中納言兼光卿草ス。堀河大納言忠親卿清書ストアリ。

鐘樓

塔ノ東ノ方ニアリ。二間四方アリ。鐘ノ大サ徑三尺五寸。厚三寸五分アリ。銘アリ如左。

鶴岡八幡宮鐘銘并序

夫當宮者。馬臺東成之州。鶴岡甲區之地。模
男山之宗。祧弘尊廟之權。康以降。禮神之圃。
頌祇之堂。為禮頌丕儼。春禴之奠。秋嘗之儀。
矣。春秋失回。鎮護年尚。答貺日新。然間去茲。
迎姑洗不圖。欠靈祠肆深。仰玄鑿忽。跋經始。
課般僊兮。是尋是尺。用規矩兮。不愆不忘。土
木之勤。既雖及兩祀。斧斤之功。殆可謂不日。
傍斯苔墀。而復鴻基。先擊蒲牢。而發鯨音。乃
佐銘曰。冶鑪甫就。寶器鑄陶。龍文製妙。鬼巧
奇標。形冰哆吟。擊不楸。窳應陰陽律。入宮商。

調小大共。振清濁。孔昭帶霜。早和隨風。自搖
式驚干界。高徹九霄。梵響無斷。羣三會朝。正
和五年二月日。鶴岡社務次第二。應永十
三年七月十八日。小町邊。火事出來。大風餘
煙鐘樓。二吹付ル刻。一心院ノ大工。謀ヲ致シ。鐘樓
ニ上リ。彼ノ火ヲ消。然シテ新ニ造。訖銘ハ正和年
中ノ古本ヲ寫ス。建長寺廣嚴菴大建書之。ト
アリ。

實朝社 本社ノ西坂ノ下ニアリ。二間ニ一ノ間ノ社
ナリ。柳營明神ト號ス。賴經ノ秘造ト云傳フ。

北斗堂跡 今ハ滅タリ。古跡不分明。東鑑ニ建

保四年。八月十九日。鶴岡宮ノ傍ニ別當定暁
僧都。北斗堂ヲ建立ス。尼御臺所。御入堂トアリ。

又相承院藏書ノ鎌倉記ニ應永年中ニ再興ノ
事三ヘタリ。今ハナシ。

神寶

壹張。

壹口。

真羽矢 十五本。篋ハ黒シ。鏃ハ皆真鍮ナリ。其中

如此ノ鏃アリ。長サ三寸二分。又



如此鏃アリ。長サ一寸一分。常ニハ異ナリ。

衛府太刀 壹振。長二尺餘。無銘。鞘ハ梨地ナリ。

兵庫鍍太刀 貳振。共ニ二尺餘。無銘。兵庫鍍トハ

云ヘトモ。古法トハ異ナリ。

太刀 貳振。銘行光トアリ。目釘穴ナシ。二尺餘アリ。

太刀 壹振。銘綱家トアリ。三尺餘アリ。

太刀 壹振。銘泰國トアリ。三尺餘アリ。

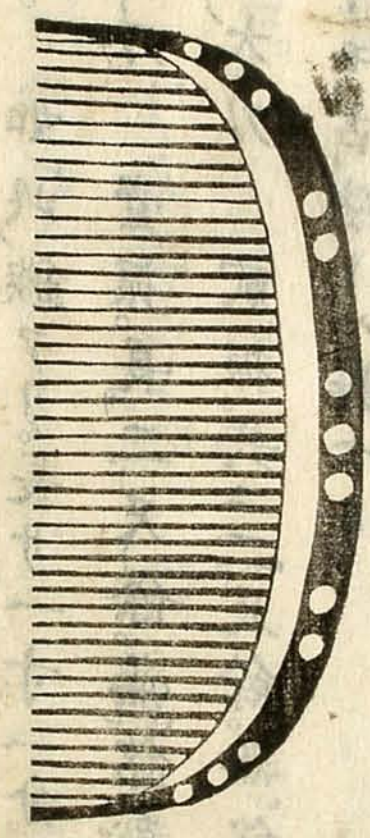
太刀 壹振。銘綱廣トアリ。三尺餘アリ。

硯箱 壹合。梨地蒔繪。藤ニ菊ヲ金具ニス内ニ水

入筆管アリ。共ニ銀ニテ作。

十二手匣 壹合。小道具。不備箱ノ内ニ圖ノ如ナル
櫛三十アリ。櫛ノ徑三寸八分餘。高サ一寸二分厚
サ三分。櫛ノ背ニ淺ク鑿タル穴十三アリ。元青貝ヲ
入タル物ニテ。今ヌケタル跡ナリ。間青貝ノ見ユルモア
ナリ。穴ノクバリ。皆三二三三三トアリ。木ハイスト云フ。

櫛圖



十二單 壹襲。香色ノ裝束ナリ。裳ナシ。緋ノ袴麩
塵ノ袍アリ。袍ハ地紋麒麟鳳凰三布幅也。襪
色ノ直衣モアリ。以上ノ三物ハ後人神功皇后
へ調進ノ物也。男山勸請以來ノ物ト云フ。按二十
二單ト云ハ俗語也。五重ノ衣ノ事ナリ。

院宣 壹通。應永二十一年四月十三日トアリ。
賴朝書 貳通。一通ニ奉寄相摸國鎌倉郡内。
鶴岡八幡新宮。若宮御領一所事。右為神威
増益為所願成就奉寄也。方束更不可有牢
籠之狀如件。壽永二年二月廿七日。前右兵

衛佐源賴朝下有。下ニ花押アリ。一通ハ在當國
貳箇所。高田郷。田島郷トアリ。餘ハ同文也。是ヲ
賴朝直判ノ書ト云フ。判ハ花押藪ニ有ト同シ。
華嚴經 壹卷。第五十一卷。如來出現品ナリ。
大織冠錄 足筆也。
菩提心論 壹卷。細字。智證大師ノ筆。奧書ニ此
論有人疑。如今依貞元錄決他疑。更不可迷。
猶如菩提心義章耳。巨唐大中九年十一月
十七日。於上都記。日本國上都比叡山延曆
寺持念供奉沙門圓珍トアリ。

大般若經 壹卷。弘法筆也。一部ヲ二卷ニ細書
ス。一卷ハ鳩峯ニ有ト云フ。此ハ初分ナリ。
功德品 壹卷。管丞相ノ筆ナリ。
心經 貳卷。共ニ紺紙金泥。一卷ニハ貞治乙巳
夷則二十五日ト有。源基氏ノ筆。一卷ハ至德
二年。二月十六日ト有。源氏滿ノ筆也。
袈裟坐具 各一具。香色也。是モ鳩峯ヨリ勸請
ノ時来ト云フ。別ニ應神ノ御袈裟ト号シテ箱
ニ入。社僧モコレヲ見ル事ナシ。其記一卷アリ。
五銚杵 壹箇。是ヲ雲加持ノ五銚ト云フ。背醍醐

正山ニ。範俊義範トテ一人ノ名僧アリ共ニ東寺
 成尊カ門弟ナリ。昔永保二年ニ大旱魃ス。範俊
 ニ詔シテ。神泉苑ニテ。雨ヲ祈シム。義範ハ俊ヨリモ
 長セリ。詔ヲ不承事ヲ憤テ。醍醐山ニ登リ修法。
 俊カ請雨法ヲサマタグ。時ニ黒雲起。雨ヲラントスレ
 バ。醍醐山頂ヨリ。範カ五銛鴉ト化シテ。黒雲ヲ吞
 却ス。故ニ名ク。其五銛。傳テ極樂寺ニ有シヲ。賴印
 僧正ノ時茲納ムト云傳。元亨釋書範俊カ傳
 ニ詳ナリ。然トモ。五銛鴉ト化ストハナシ。暴風起テ
 雲氣ヲ吹散ストアリ。

小五銛杵 壹箇。禪林寺宗叡僧正ノ持金剛
 杵ト云傳。按スルニ。釋書宗叡傳ニ。貞觀三年ニ
 入唐シテ。青龍寺法全所持ノ金剛杵ヲ附屬
 ストアリ。其金剛杵ナラシ。
 如意寶珠 壹顆。内陣ニ納テ見ル人ナシト云。供
 僧ノ云。如意珠ニ二種アリ。一種ハ龍ノ頸上ニアリ。
 一種ハ能作生珠ト號シテ。真言ノ法ヲ行テ成ル
 珠ナリ。今爰ニアルハ能作生珠ナリ。珠ノ製法呪
 法ハ真言ノ秘法ト云。
 半玉 壹顆。

鹿玉 壹顆。按スルニ本州綱目獸部ニ。鮓答ハハ生ニ走レ獸及ヒ牛馬諸畜肝膽之間有ニ肉囊ツム裹レ之ヲ多ク至ル升許大者如雞子小者如栗如榛其狀白色似石冰石似骨冰骨打破層疊又云時珍嘗靜思之牛之黃狗之寶馬之黑鹿之玉犀之通天獸之鮓答皆物之病而人以為寶トアリ。今此牛玉鹿玉モ此類ナリ。

五指量愛深明王像 壹軀。弘法作。四五寸許ノ丸木ヲ蓋ト身ニ引分ケ身ノ方ニ愛深ヲ作付タリ。臺座トモニ一木ニテ作。極メテ妙作也。

辨才天 壹軀。蛇形ノ自然石也。錦ノ袋ニ入内陣ニアリ。

藥師像 壹軀。弘法作。厨子ニ入。前ニ十二神ヲモ小サク刻ミ。扉ニ四天王ヲ彫ル。極細ノ妙作也。

回御影 秘物ニテ昔ヨリ終ニ見タル人ナシ。錦ノ袋ニ入テ長三尺ハカリ。幅八寸四方ホトノ箱ニ入。鳥居ヲ立注連ヲ引テ十二箇院ノ供僧。一ヶ月ツノ守護シ。毎日三座ノ行ヲ勤メ。法華經ヲ讀也。俗ニ回リ御影ト云ナリ。縁起アリ。奥ニ元亨元年八月廿五日。最勝院敬任之以慈度

自筆本寫之了了アリ。其畧ニ云。賴朝尊仰之。賴朝薨シテ後。二位尼。御信仰又甚シ。其後時。賴置鶴岡御宸殿。正嘉年中。奉遷八幡宮。云。相傳源賴義。安倍貞任ヲ征伐セントテ。奥州下向時。此御影ヲ守リニ掛。既ニ事了テ歸洛スル時。鎌倉來テ。此御影ヲ八幡宮ニ納ラル。其後義家。下向ノ時モ。此ニ來テ御影ヲ申シ請テ守リニ掛。奥州退治シテ歸ル時ニ。又此ニ來テ宮ヲ修復シ。御影ヲ納メラル。賴朝。豆州ニ在ス時。一夜夢ミラク。卅五菩薩ヲ勸請セヨト。時ニ異人來テ。此御

影ヲ授ク。賴朝此ヲ受テ。後ニ四海ヲ掌ノ中ニ治メ。宮ヲ由比濱ヨリ小林へ移シ。卅五个院ヲ立。御影ヲ納メラルト也。縁起ハ賴朝後事也。

二舞面 貳枚。

陵王面 壹枚。

拔頭面 壹枚。

磯良面 壹枚。皆妙作也。

歌仙 上下ノ社内ニ掛之。上ノ宮ニ懸タル八尊純法親王ノ墨蹟ナリ。下ノ宮ニ掛タル八良恕法親王ノ墨蹟ナリ。繪ハ共ニ狩野孝信ナリ。

已上

新宮 我覺院ノ門前ヨリ左へ折テ行。山ノ麓ニ
 アリ。三間ニ二間ノ社也。當社ノ縁起淨國院ニアリ。
 東鑑ニ寛治元年四月廿五日。後鳥羽帝ノ御
 靈ヲ鶴岡ノ乾ノ山ノ麓ニ勸請シ奉ラル。是彼ノ
 怨靈ヲ宥メ奉ランカ為ニ日來一字ノ社壇ヲ建。立
 セラルトアリ。社ノ後口ハ深谷也。一、根ニシテ六、本
 ニ分レタル大杉アリ。魔境ニテ。天狗此ニ住ト云フ。
 普川國師ノ新宮講式ニ云。有靈託。構小社於
 神宮縁邊。有敬信儼三所於靈岳。甲勝所謂

左胸者。順德帝。右胸者。長嚴僧正。共為内秘
 外現云。神明鏡ニ。後鳥羽帝崩御後。鎌倉中
 喧嘩鬪諍シケリ。就中五月廿二日。大騷動モ
 有ケレハ。彼御怨念ニヤトテ。雪下ニ新宮ト號シ。
 法皇ヲ祝シ奉ル。順德帝ト護持僧長玄法印
 ト御真體トナリ。上野行山庄ヲ神領トスアリ。
 長嚴。長玄。東鑑ニ所謂。東大寺造營ノ導師重
 源上人ナリ。三書異ナリト云トモ實ハ一人ナリ。
 社僧ノ云傳。モ如此。俗ニ右ハ土御門帝ト云ハ未考。
 神主 馬場小路ニ居宅ス。鶴岡社務職次第ニ

建久二年。十一月。神主ヲ定メラル者也トアリ
 大伴氏。今ニ不絶任スルナリ。頼朝ヨリノ書。并ニ
 代々將軍家ノ文書等多シ。今モ諸大夫ヲ授ラ
 也。神主家傳文書ニ。頼朝ヨリ大伴清元賜ハル
 自筆ノ書アリ。其文如左。

せん日さるるの時。八人くくうぬ志の事
 おほせあつめぬ。又おてまひす。志を
 とし。むきうみ。同清元のさるる。他人
 のさるるけある。さるるさるる。

文治二年。四月日。源朝臣。下ニ有判。判ハ如花

押藪載假名ツカヒ。書様全如此也。按スルニ
 ろうハ。参籠ナリ。八人くくうぬ志ハ。八幡宮神主
 也。おてハ。追而ナリ。志をさるるトハ。式法ナリ。ハ
 ハ云ノ字也。今ノ假名ツカヒニテハ。いひト書ベシ。昔
 ハカナツカヒ不定シテ如此書タリ。と云ハ。濱ナリ。
 うみハ。海ナリ。或説ニ云。おてハ。御幣ナリ。ミテク
 ラヲ。オテクラト云ナリ。ハ。トハ。飯ノ字ナリ。と云ハ
 ハ。ンナリ。麥ノ字ナリ。麥ニテ菓。子ヲ作ル事也。と
 うみハ。小衣ナリ。と云ハ。モニ通フ。モハ。ヲニ通フ。ウハ
 引音ナリ。布衣ヲホウ井ト云フ心。ト同シ。モウミ

ハ。社人ノ服ナリ。則社人ノ事ヲ云トナリ。何レノ説是ナル事ヲ不知。或云。前ノ説ヲ是トスベシト。

小別當 馬場小踏ニ居宅ス。社務職次第ニ云。

當社別當宮圓曉法眼。三井寺ヨリ御下向御供申肥前法橋永契ト申坊官也。然間建久二年十一月日別當宮圓曉御坊ヨリ小別當ノ官ヲ給リ。社内ノ掃除奉行ニ定メ置ル者也。其以後御供方奉行也。別當ノ被官坊官ノ類也。

淨國院 以下ノ十二箇院ハ當社ノ供僧也。鶴岡

西ノ方ニ居ス。淨國院ヨリ次第ノ如ク東顏ヨリ

西顏ニテ寺町ヲナス。建久二年ニ賴朝卿二十

五ノ菩薩ニ形ドリ。院宣ヲ奏シ請テ供僧二十五

坊ヲ建立セラル。其後應永二十二年二月廿五

日。院宣ニ依テ坊號ヲ改メ院號トス。源成氏ノ代

マテ廿五院有シト見ヘタリ。成氏年中行事ニ載

永正ノ比ヨリ。漸クニ衰ヘテ。七院ノミアリシヲ東

照大神君。文祿二年ニ十一院ヲ再興シ給ト也。

淨國院ノ開基ハ。社務職次第ニ云。初佛乘坊。

忠尊。號大夫律師山城人也。法性寺禪定殿

下忠通猶子也。

我覺院 初、密乘坊。朝豪。号、大納言僧都法性寺禪定殿下忠通末子。

正覺院 初、千南坊。定曉。号、三位法橋。平大納

言時忠一門。建保五年五月十一日寂。此院

ニドコモ地藏ト云アリ。智岸寺。谷ノ條下ニ詳也。

海光院 初、實藏坊。義慶。號、武藏。阿闍梨。平家

一門。寬喜元年八月廿日寂。

增福院 初、寂靜坊。成慶。號、辨律師。平家一門。

寶治元年正月九日寂。

慧光院 初、文慧坊。永秀。阿闍梨。

香象院 初、善松坊。重衍。號、丹後。堅者。中納言

通秀卿ノ孫。

莊嚴院 初、林東坊。行耀。號、山口。法印。平家一

門。寬元元年七月十四日寂。八十五。

相承院 初、頓學坊。良嘉。律師。平家一門。寬喜

三年十月七日寂。八十二。本尊八。正觀音也。

東鑑ニ。治承四年八月廿四日。福山。敗。七ノ

時。賴朝。警ノ中ノ正觀音ノ像ヲ取テ。或巖窟ニ

安シ奉ラル。土肥。實平。其御意ヲ問奉ルニ。仰ニ云。

首ヲ景親等ニ傳ルノ日。此本尊ヲ見バ。源氏ノ大將軍ノ所為ニ非ルノ由。人定テ誅ヲ貽ベシ。件ノ尊像ハ賴朝三歲ノ時。乳母清水寺ニ參籠セシメ。嬰兒ノ將來ヲ祈ル事。懇篤ニシテ。二七箇日ヲ歷テ。靈夢ノ告ヲ蒙リ。忽然トシテ。二寸ノ銀正觀音ノ像ヲ得テ歸敬シ奉ル所也。同年十二月廿五日。巖窟ニ納ラル。所ノ小像。正觀音。慧光坊弟子。關加桶ノ中ニ安シ奉リ鎌倉ニ參著ス。數日山中ヲ搜シ。彼巖窟ニ遇テ。希有ニシテ尋出シ奉ルノ由申。武衛合手請取給フトアリ。今

此木像頂ニ納テアリ。又押手ノ聖天ト云フ此ニアリ。是ハ本殿山ニアリ。後一條帝ノ時。左京大夫道雅。伊勢ノ齋宮ヲ戀テ。今ハ尺思ヒ絶ナントバカリヲ。人ツテナラテイフヨシモカナト詠テ。且此聖天ニ祈ル。其利生ニヨリ。齋宮男ノ家ニ通ヒ給フ。此事宮中ニ顯ハレテ。其由ヲ糺シ問ニ。齋宮我心共ナク夢ノ如ニサソワレ行トナシ。羣臣謀テ。齋宮ノ手ニ墨ヲ付テ行彼門ニ押シム。歸テ後人ヲシテ見セシムルニ。路中ノ門ニ皆手形アツテ。何レヲソレト知カタシ。是聖天ノ所為也。佛

カトハ云ナガラ。齋宮ヲカクセシ罪ナリトテ。鎌倉ニ捨ラレシヲ。此ニ安ストナリ。故ニ押手ノ聖天ト云。縁起ニ詳ナリ。此、聖天ハ慈覺大師異國ヨリ將來ノ像也ト云フ。

安樂院 初、安樂坊重慶法眼。平家ノ一門ナリ。等覺院 初、南禪坊良智。號肥前律師。本三位平重衡息也。弘法自作ノ木像アリ。鎌大師ト云也。鎌ヲ以テ膝ヲ屈伸スルヤウニ作ル故ニ名ク。安置スル堂ヲ蓮華定院ト云フ。勅書ヲ板ニ書寫シテ挂タリ。御祈禱スベキノ勅意。執達左少辨俊

國。應永二十七年。十二月十三日トアリ。不動ノ畫像一幅アリ。弘法ノ筆也。弘法自畫ノ像一幅。兩界曼荼羅二幅。西山宮道覺法親王筆。青蓮院殿。後鳥羽皇子ヲ辨才天像一軀。十五童子アリ。三浦荒二郎。若江島ニ安置スル本尊ト云フ。等覺院ノ後ニ大ナル谷アリ。八正寺ト云テ昔八幡ノ大別當僧正ノ舊跡ナリ。東鑑ニ壽永元年。九月廿六日。鶴岡ノ西ノ簾ヲ點シテ。宮寺別當坊ヲ建ラルトアリ。此所ナラン。最勝院 初、靜慮坊。良祐堅者。

○柳原

柳原ハ八幡宮舞殿ノ邊ヨリ東。藥師堂ノ前ニテヲ云。昔柳ノ多カリケルニ因テ也。枯株今尚存セリ。里俗傳テ古歌アリ。作者不知。年ハタル鶴岡邊ノ柳原。青ニニケリナ春ノシルシニト。此歌ヲ歌枕名寄ニハ平泰時ト有テ。柳原ヲ松ノ葉ノトアリ。何カ是ナルコトヲ不知。久シク此所ノ歌也ト云ナラハシタルコトナレバ。俗ノ傳ヘ語ルヲ本トスヘキ歟。

○若狹前司泰村舊跡

若狹前司泰村舊跡ハ八幡宮ノ東ノ山際ニアリ。

東鑑ニ寛元三年七月六日。將軍家御方違トシテ。若狹前司泰村カ家ニ渡御シ給フ。泰村カ家ハ御所ヨリ北ノ方也トアリ。按スルニ將軍ハ賴嗣也。賴嗣ノ屋敷ハ若宮大踏ナレバ。此所正北ナリ。鎌倉物語ニ賴朝屋敷ノ北ト書セリ。將軍ノ御所ヨリ北ニ當ルト有テ見テ。賴嗣モ。賴朝屋敷ニ居セラレタリト心得タリ。東鑑脱漏ヲ未見ユヘニ。賴經將軍ノ時。嘉禎二年ニ若宮大踏ヘ遷ラレシト云事ヲ不知歟。賴經屋敷ノ事ハ賴朝屋敷ノ條下ニ詳也。泰村ハ三浦平六兵衛尉義村カ長子也。甚々權威アリ。

寶治元年六月五日。一門悉七フ。

○筋替橋

附畠山重忠屋敷

鎌倉十橋

筋替

或ハ佐ノ須地賀江

橋ハ

雪下ヨリ

大倉村へ出ル道ノ橋

ナリ。鎌倉ノ十橋ト云ハ琵琶橋。筋替橋。歌橋。勝

橋。裁許橋。針磨橋。夷堂橋。逆川橋。亂橋。十王堂

橋ナリ。筋替橋ノ西北ヲ畠山重忠カ屋敷ノ跡ト云

東鑑ニ。正治元年五月七日。醫師時長。昨日京都

ヨリ參著ス。今日掃部頭カ龜谷ノ家ヨリ。畠山次

郎重忠カ南御門ノ宅ニ移住ス。是近ニ候セシメ。

姫君ノ御病惱ヲ療治シ奉ランカ為ナリトアリ。

○蛇谷

蛇谷ハ若宮ノ東北ニアル谷ヲ云也。沙石集ニ。鎌倉

ニ或人ノ女。若宮ノ僧坊ノ児ヲ戀テ疾ニナリヌ。母ニ

カクト告知セケレバ。彼児カ父母モ知人ナリケルニ

ニ。此由申合テ。時々児ヲ通ハシケレトモ。志シモナカリ

ケルニヤ。疎ク成行ホドニ。終ニ思ヒ死ニシヌ。父母悲テ。

彼ノ骨ヲ善光寺へ送ントテ。宮ニ入テ置ケリ。其後

此ノ児病付テ。物狂ハシクナリケレハ。一間ナル處ニ置

ニ。物語ノ聲シケリ。父母物ノ隙ヨリ見ルニ大ナル蛇

ト向ヒ居タリ。終ニ児モ夕セニケリ。入棺シテ若宮ノ

K291
16
1



西ノ山ニ墓ルニ。棺ノ中ニ大ナル蛇有テ兒ヲ纏フト
 云リ。今按スルニ。此地ノ事ナル歟。或云會下谷ノ西
 ノ後假粧坂ノ北ニ有谷ヲ云也。又名越ノ内ニモ
 蛇谷ト云處アリ。此トハ異ナリ。

新編鎌倉志卷之一

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 蛇谷, 會下谷, and 越ノ内.]

